

# やまのいもの需給動向

調査情報部



ながいも (青森産)

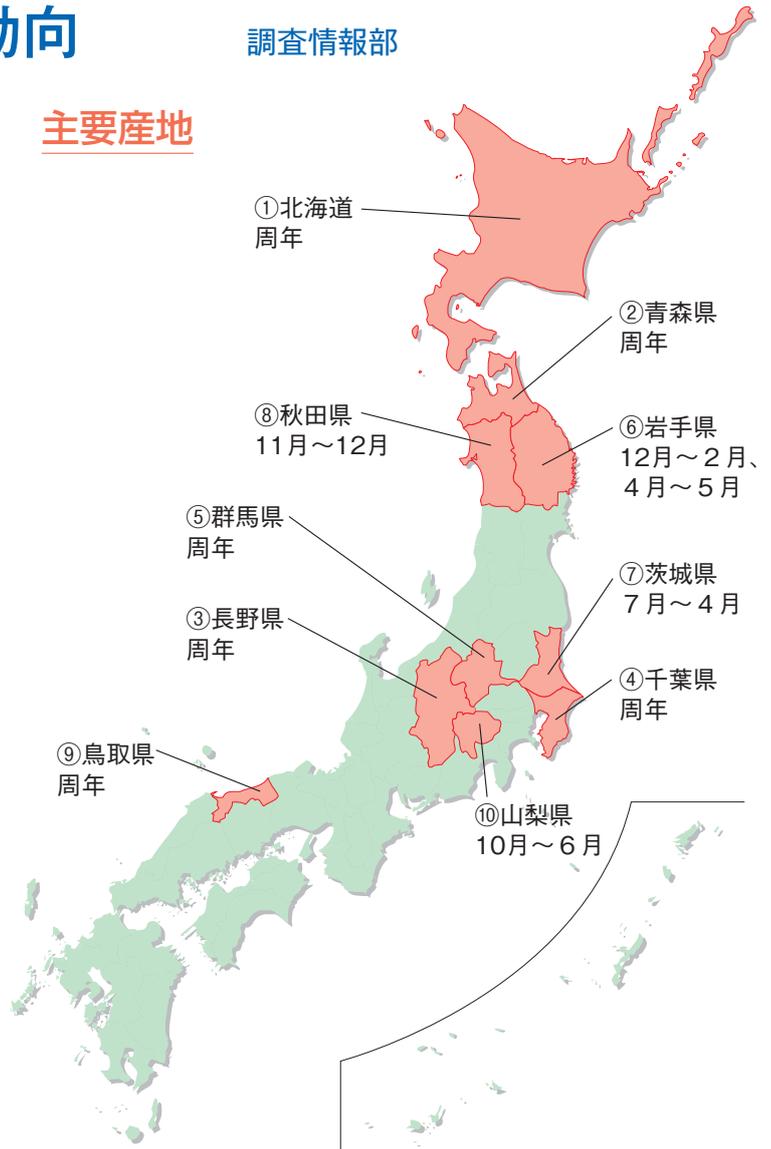


いちょういも (千葉産)



やまといも (伊勢いも、三重産)

## 主要産地



資料：農林水産省「平成27年産野菜生産出荷統計」(概数)  
 注：図中の番号は収穫量の多い順番、期間は主な出荷期間を表している。

やまのいもは、ヤマノイモ科ヤマノイモ属のうち日本で食用として栽培されているものの総称であり、中国原産の山芋、日本原産の自然薯じねんじょ、東南アジア原産の大薯だいじょに分けられる。さらに、山芋はその形状により、円筒形のながいも、扁平形のいちょういも、球形のやまといもの3種類に大別される。

ながいもは、日本で最も多く栽培されており、酢の物や山かけなどに利用される。いちょういもは、関東ではやまといもとも呼ばれ、ながいもより粘り気が強く、とろ

ろなどに利用される。やまといもは、つくねいもとも呼ばれ、やまのいもの中では最も粘り気が強く肉質も良いことから、高級食材として和菓子の原料や練り物のつなぎなどにも使われている。

やまのいもは主に11月から12月にかけて収穫するが、貯蔵性が高いため土の中で越冬させ、翌年の春に収穫する春掘りと併用することで、年間を通して出回っている。近年は、台湾や米国といった海外でながいもの需要が高まっており、輸出量も増加傾向にある。

## 作付面積・出荷量・単収の推移

平成27年の作付面積は、7270ヘクタール（前年比100.1%）と、ほぼ前年並みとなっている。

上位5道県では、

- 青森県 2280ヘクタール（同101.3%）
- 北海道 1890ヘクタール（同101.1%）
- 群馬県 538ヘクタール（同 96.4%）
- 千葉県 524ヘクタール（同 98.9%）
- 長野県 310ヘクタール（同 98.1%）

となっている。青森県、北海道および長野県は主にながいもが、群馬県および千葉県は主にいちょういもが作付けされている。

27年の出荷量は、13万4300トン（前年比99.9%）と、ほぼ前年並みであった。

上位5道県では、

- 北海道 5万2700トン（同101.9%）
- 青森県 5万 700トン（同 97.9%）
- 長野県 5540トン（同 90.5%）
- 千葉県 4880トン（同 96.6%）
- 群馬県 4840トン（同103.6%）

となっている。

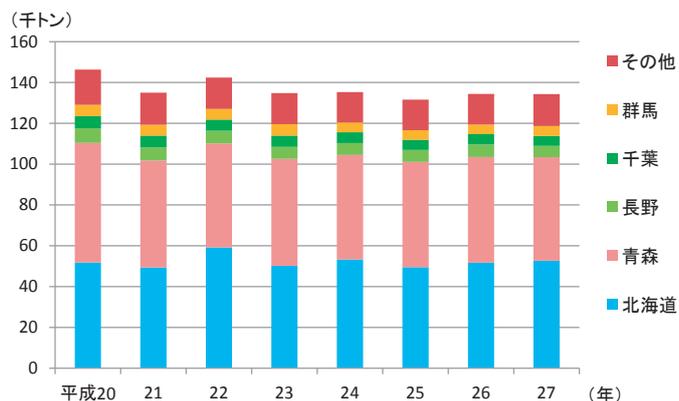
出荷量上位5道県について、10アール当たりの収量を見ると、北海道の3.34トンが最も多く、次いで青森県の2.50トン、長野県の2.43トンと続いている。その他の県で多いのは、茨城県（2.35トン）、鳥取県（2.21トン）であり、全国平均は2.24トンとなっている。

### 作付面積の推移



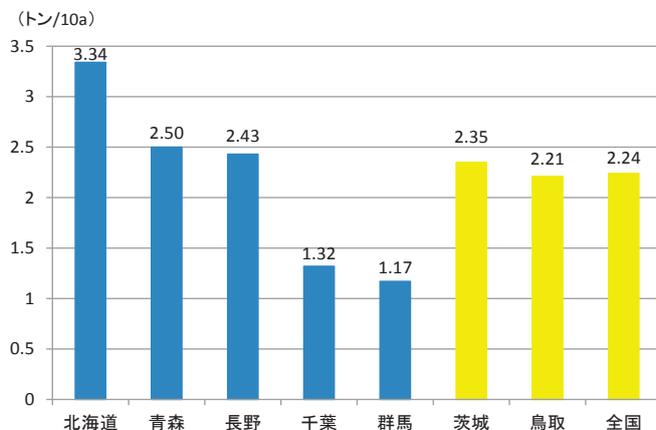
資料：農林水産省「平成27年産野菜生産出荷統計」（概数）

### 出荷量の推移



資料：農林水産省「平成27年産野菜生産出荷統計」（概数）

### 平成27年の主産地の単収



資料：農林水産省「平成27年産野菜生産出荷統計」（概数）

注：黄色は、出荷量上位5道県以外で単収が多い2県および全国平均。

## 作付けされている主な品種等

ながいもは、やまのいもの代表的な品種であり、青森県や北海道などに大産地がある。いちょういもは、千葉県や群馬県、埼玉県など、主に関東周辺で栽培されている。また、やまといもには、三重県や奈良県の伊勢いも、兵庫県の丹波いもなどの特産品がある。

日本に古くから自生している自然薯は、食用だけでなく薬用としても珍重されてきた。天然ものは収穫するのが難しく数量が限られることから、市場に出回っているのはほとんどが栽培ものである。

### 都道府県名 主な品種

北海道 ながいも（十勝選抜系）

青森県 ながいも、トロフィーながいも、丸いも

長野県 ながいも

千葉県 いちょういも（デブ系、ふさおうぎ）

群馬県 いちょういも

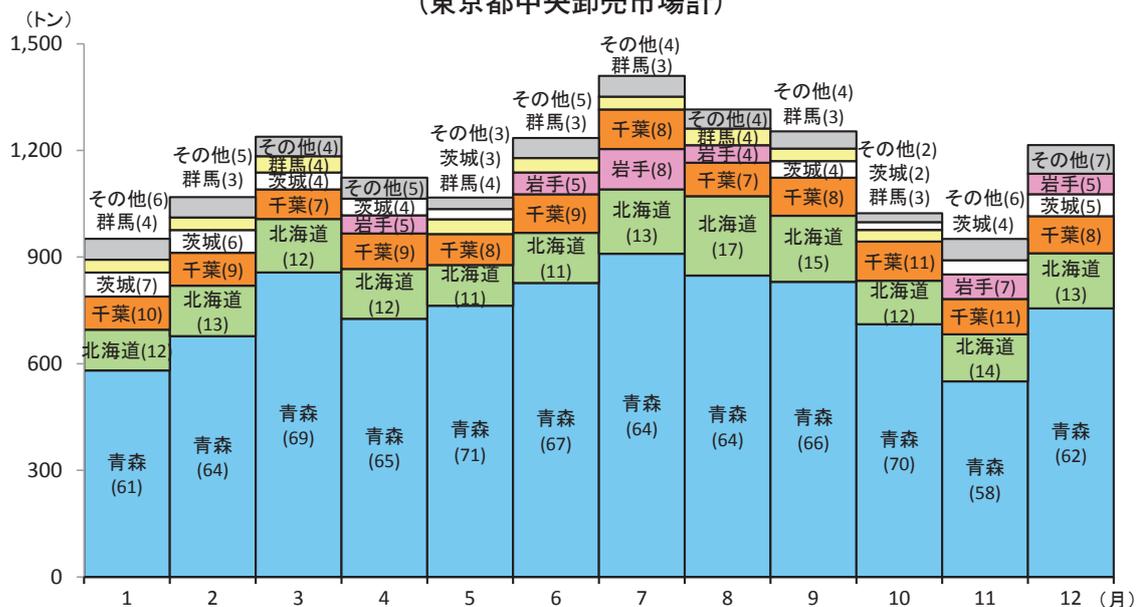
資料：農畜産業振興機構の関係者聞き取りによる。

## 東京都・大阪中央卸売市場における月別県別入荷実績

東京都中央卸売市場の月別入荷実績（平成27年）を見ると、年間を通して安定した入荷となっている。大部分は関東以北の産地からの入荷であり、すべての月で入荷量の1位

は青森産、2位は北海道産である。青森産は、月別入荷量全体の約60～70%を占めている。

平成27年 やまのいもの月別入荷実績  
(東京都中央卸売市場計)

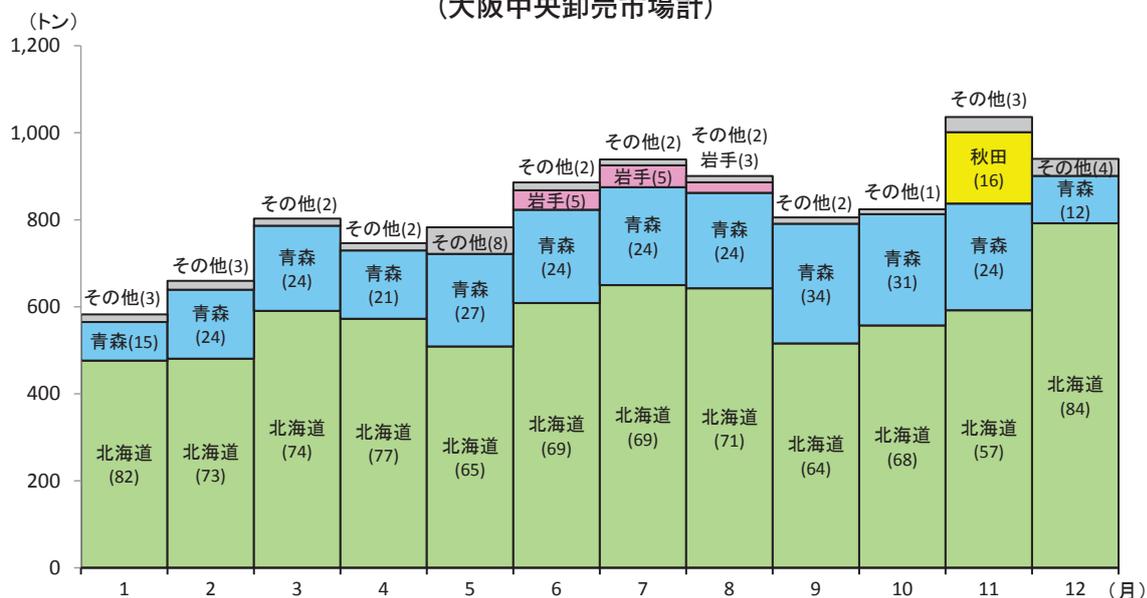


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：平成27年東京都中央卸売市場年報）  
注：（ ）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（%）である。

大阪中央卸売市場の月別入荷実績（平成27年）を見ると、すべての月で入荷量の1位は北海道産、2位は青森産である。11月

を除き、両道県で全体の90%以上を占めている。11月は秋田産の入荷が目立つ。

平成27年 やまのいもの月別入荷実績  
(大阪中央卸売市場計)



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：平成27年大阪市・大阪府中央卸売市場年報）

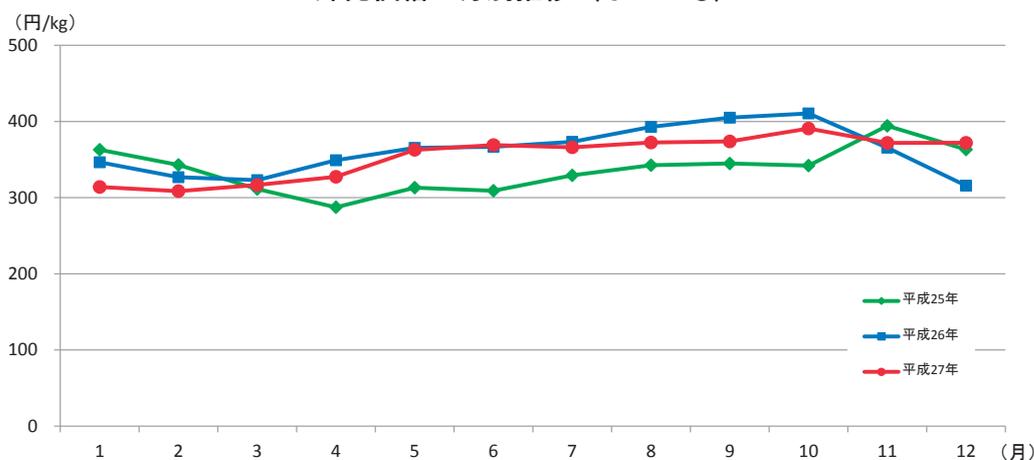
注：（ ）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（%）である。

## 東京都中央卸売市場における価格の推移

東京都中央卸売市場の価格（平成27年）を代表的な品種であるながいもで見ると、1キログラム当たり309～391円（年平均

355円）の幅で推移している。月による変動が少なく、価格は安定している。

卸売価格の月別推移（ながいも）



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：東京都中央卸売市場「市場月報」）

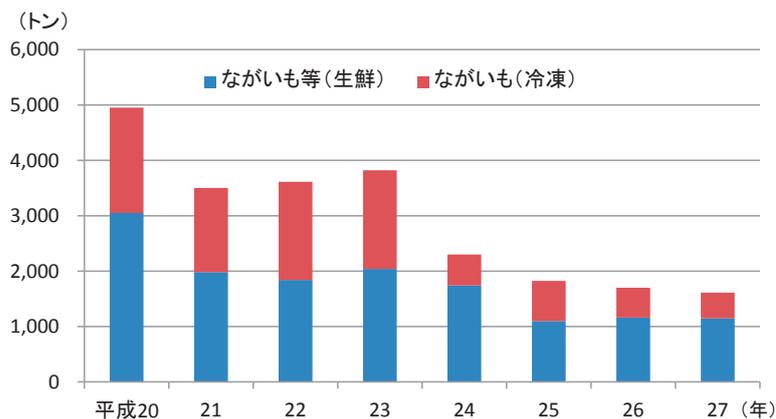
注：外国産も含む。

## 輸入量の推移

輸入量全体（ながいも等（生鮮）とながいも（冷凍））を見ると、平成24年以降は減少傾向にあり、27年の合計は1612トンとなっている。

国別輸入量を見ると、中国の割合が多く、27年のながいも等（生鮮）では全体の78.0%、ながいも（冷凍）では93.8%を占めている。

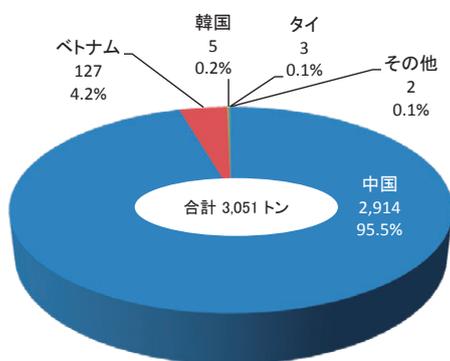
ながいも等（生鮮）、ながいも（冷凍）輸入量の推移



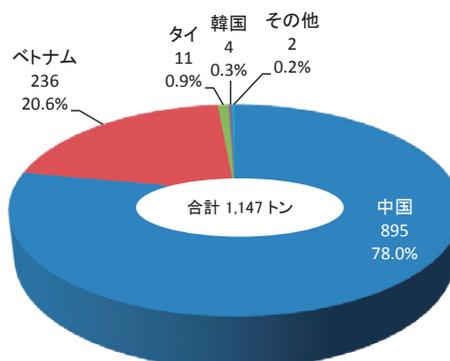
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

## 国別輸入量

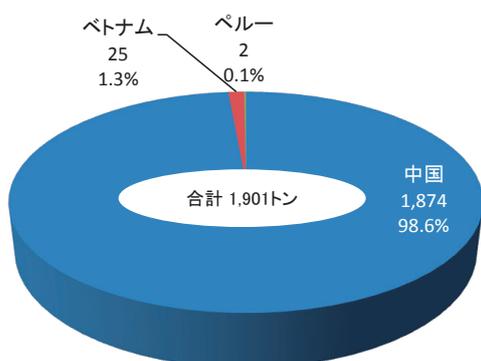
平成20年  
ながいも等（生鮮）



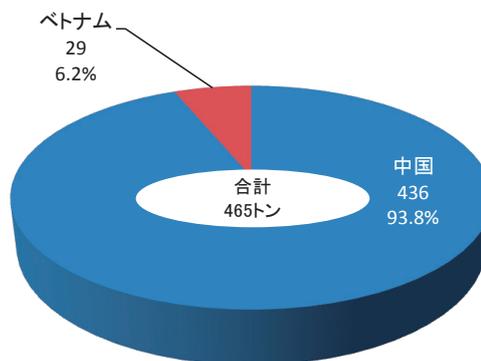
平成27年  
ながいも等（生鮮）



平成20年  
ながいも（冷凍）



平成27年  
ながいも（冷凍）



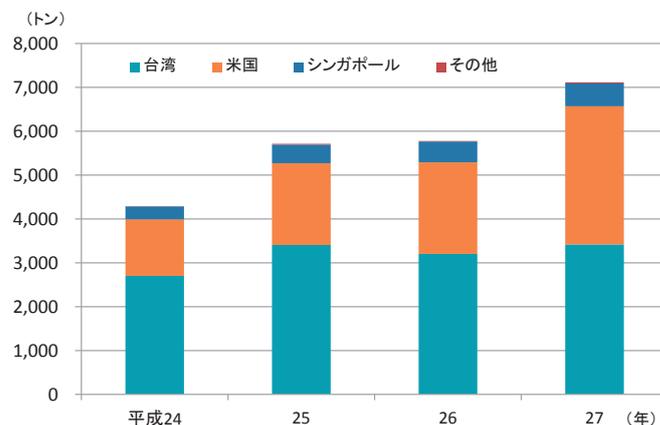
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

## 輸出量の推移

平成27年のながいも（生鮮）の輸出量を見ると、合計7114トンであり、前年比123%と大幅に増加している。国別に見る

と、台湾への輸出が3419トンであり、米国が3150トンと、両国で全体の約90%を占めている。

ながいも（生鮮）の輸出量の推移



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

## 消費の動向

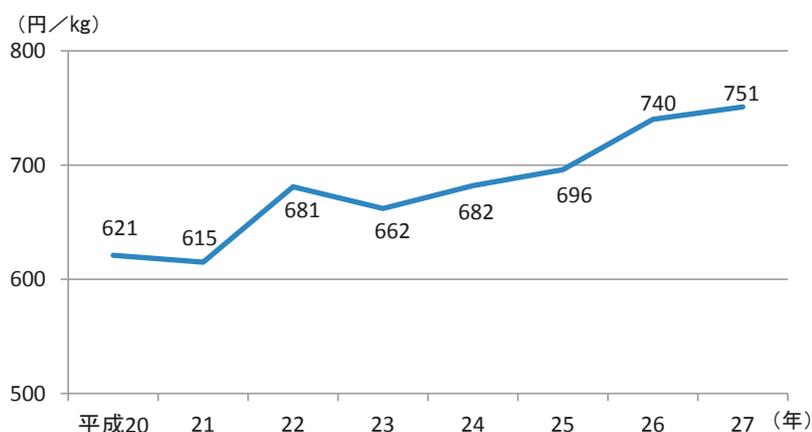
すり下ろしてお好み焼きに混ぜたり、そばのつなぎや和菓子に利用したりと、用途が広いやまのいもは、健康食志向の影響もあり、需要は堅調に推移している。

中国では山薬と呼ばれ、滋養強壯の漢方薬として利用されており、高血圧の予防に効果

のあるカリウム、マグネシウムなどのミネラルや、ビタミンB群、Cなどをバランス良く含んでいる。

風味豊かで栄養価に優れるやまのいもは、生で食べたり酢の物や揚げ物にするなど、幅広く使いたい健康野菜である。

小売価格（東京都区部）の動向



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：総務省「小売物価統計調査」）